戦後80年

滝川滑空訓練場の訓練生　滝川町二の坂 1945

たきかわ 戦争の記憶 展

— 第二次世界大戦終結から 80 年 —

今、あなたに伝えたいことがある。

2025.
7.5(sat)-8.31(sun)

[開館時間]　10:00 ～ 17:00（最終入館 16:30）
[休 館 日]　月曜日（7/21・8/11 を除く）・7/22(火)・8/12(火)
[入 場 料]　一般 300 円 / 高校生以下無料
[協　　力]　滝川市郷土研究会

滝川市美術自然史館
Takikawa Museum of Art & Natural History
北海道滝川市新町 2-5-30　Tel. 0125-23-0502

防空頭巾

戦地からの手紙を読む家族 1938
（撮影：岩佐 職司）

戦後 80 年 たきかわ戦争の記憶

今、あなたに伝えたいことがある。

滝川の人々にとって戦争とは何だったのでしょうか。

1931（昭和6）年の満州事変以降、戦争は次第に拡大、思想・経済などあらゆるものが統制され、暮らしは戦争一色に染まっていきました。
滝川からも多くの若者たちが戦場に駆り出され、そこで命を落としました。

1945（昭和20）年 8月15日戦争終結の詔書の放送をもって終戦を迎えます。

本展では資料や写真、生活物資などから当時の市民の暮らしぶりを振り返り、忘却させてはならない『戦争の記憶』を展覧します。

大日本国防婦人会滝川分会 1938

出征兵士をおくる　江部乙駅 1939
（撮影：岩佐 職司）

葬儀場に向かう町葬の列　幌倉(東滝川) 1940

戦争と暮らし・人造石油工場

満州事変から第二次世界大戦終戦までに 936 人の滝川の青年たちが中国やアジア各地、太平洋上の島々、沖縄などの戦場で命を落としたと記録されています。

戦争も初期の段階では出征兵士を送る会、戦死した兵士の霊を祀る町葬などが町を挙げて盛大に行われましたが、戦況が悪化するにつれ、ひっそりしたものへと変わっていきました。

戦時下の暮らしでは、米をはじめ生活必需品が配給制となり、日常生活は困窮を極めていきます。また灯火管制、防空壕造り、竹槍訓練などがたびたび行われるなか、農家の男性が出征したことで、田植・草刈・稲刈などの農作業は婦人会や高等女学校の生徒たちが援農という形で行い、銃後を支えました。

人々の生活が脅かされるなか、産炭地に囲まれた滝川では国策により大規模な軍需工場となる北海道人造石油滝川工場が建造されます。「小軍都」の様相を呈し、産業が盛んになる一方で戦火に見舞われる危険性も抱えていました。

人造石油ディーゼル油初輸送　人造石油工場構内 1943

■関連事業　講演会「記憶をたどる ― 戦時下のたきかわ ―」
講師：白井 重有氏（滝川市郷土研究会参与）/ 日時：8 月 9 日㈯ 10 時 30 分 ~/ 会場：滝川市美術自然史館

滝川市美術自然史館
Takikawa Museum of Art & Natural History
北海道滝川市新町2丁目5番30号
Tel.0125-23-0502

[交通案内]
- ●徒　　歩：JR滝川駅から20分
- ●バ　　ス：JR滝川駅前バス乗り場から開発局前停留所で下車、徒歩5分
- ●タクシー：JR滝川駅から5分

※駐車場は中央児童センター駐車場をご利用ください。